

『闘う相手を間違えるな』 エペソ人への手紙6章10-13節 2019.2.10 聖日礼拝説教より

『…彼らの目を開いて、暗やみから光に、サタンの支配から神に立ち返らせ、わたしを信じる信仰によって、彼らに罪の赦しを得させ、聖なるものとされた人々の中であって御国を受け継がせるためである。』 使徒の働き 26:18
私たちには日々闘いがあるが、本当の闘いは、見えない悪霊との闘い(6:12)。私たちは目の前の誰かと争うが、本当の敵は互いの関係を壊す「黒幕」。背後で私たちの感情をコントロールする。

❶見えない敵の正体(エペソ 6:10-13)…悪魔の起源は「天から墮ちた明けの明星(イザヤ 14:12-14)」その本質は「高慢」。神に敵対し、中傷(エペソ 4:27)し、誘惑し(マタイ 4:3)、偽る(ヨハネ 8:44)「この世の神(Ⅱコリント 4:4)」、「空中の権威を持つ支配者(エペソ 2:2)」、「巨大な竜・全世界を惑わすあの古い蛇(黙示録 12:9)」。悪魔は人格を持って神に敵対し、私たちを中傷し、誘惑し、偽り、惑わし、世を支配する。エバはその「敵」の存在に油断、御心を正しく理解せず、アダムを罪に引きずりこんだ。御言葉を正しく聴いて理解することで偽りの霊から守られる！悪魔は神の子らを誘惑する。肉の欲、目の欲、暮らし向きの自慢(Ⅰヨハネ 2:16)は強烈！欲しいと思えば欲しい！目に見える世界に執着すれば御心から離れていく(マタイ 16:23)。悪魔は、福音を輝かせなくし(Ⅱコリント 4:3-4)、神への感謝と謙遜を忘れさせ、自分を誇らせる(ヨハネ 13:2・使徒 5:3)。自分がどう感じ、どう思うかはあってもいい…しかしそこで、「神様、あなたの御心は何ですか？」と問う姿勢が欲しい！

❷見えない敵には見えない力で(6:10・13)…「主にあつて、その大能の力によって強められなさい(受動態←神にさせていただくこと)」。パウロは、「強くなれ」ではなく、「強められよ」と。そして「神のすべての武具を身に着けなさい(これは、能動態←自分がすること、出来ること)。

★サタンは、エバに問いかけたように、今、のぞみ教会に問う…「神は、この教会を祝福すると、本当に言われたのですか？」。目に見える現実問題は大変！しかし教会のかしらである主に強められ、霊的に成長させられることに「のぞみ」がある。神の大能の力に信頼し、意識して神の武具を装備しよう！真理を運び、神の義を胸に、平和の福音の靴をはいて出かけ、信仰の大盾を全面に掲げ、救われたことをいつも覚えて、神の言葉を握りめたい！目に見える現実の背後にある、偽りの霊、惑わす霊を見抜き、愚かにも、人を相手に争うことなく、敵を間違えることなく、神の御心を慕い求めたい！